



## ★ラトビア共和国ヴァイヴァルス駐日大使の来訪

10月20日、21日の2日間、井上琢智学長の招待により、ペーテリス・ヴァイヴァルス特命全権大使が3年ぶりに関西学院を訪問され、講演会、記念植樹苗木贈呈式等が行われました(苗木贈呈の詳細は次頁をご覧ください)。90年前に関西学院で教えていたラトビア人青年イアン・オゾリンの存在を当室が掘り起こしたことがきっかけとなって始まったラトビアと関西学院の関係ですが、初代駐日大使であるヴァイヴァルス氏のご自分の使命を「オゾリンがしていたことを引き継ぐこと」と明言されました。

日本・ラトビア国交樹立90年、国交回復20年の記念すべき年に、学長室、国際学部、総合政策学部、経済学部、理工学部、産業研究所、施設部、千刈キャンパス、当室の協力の下、秋晴れの中でヴァイヴァルス大使以下、オレグス・オルロフス前次席、ダナルダーカ2等書記官をお迎えできたことを大変嬉しく思います。



学長主催歓迎昼食会の席上、ラトビア外務大臣からの感謝状が池田裕子さんに贈呈されました。

- ・20日(西宮上ヶ原キャンパス)
  - 井上琢智学長主催歓迎昼食会
  - 「ラトビア歌と踊りの祭典」写真展見学
  - 国際学部連続講演会(ラトビア語・日本語通訳付)
  - 記念植樹苗木贈呈式
- ・21日(神戸三田キャンパス)
  - 千刈キャンパス見学、理工学部見学
  - 高畑由紀夫総合政策学部長主催歓迎昼食会
  - 総合政策学部研究会講演会(英語)
  - 学生とのQ&A(英語)



【国際学部連続講演会】



【総合政策学部でのQ&A】

## ★ベーツ院長胸像(ベーツチャペル)の台座修復

震災後、傷みが目立っていたC. J. L. ベーツ第4代院長胸像(関西学院会館ベーツチャペル)の台座の修復が完成し、11月3日のホームカミングデーの際、関西学院に返還されました。この修復は、KGAA(2012年1月より関西学院大学体育会同窓倶楽部と改称予定)副会長北村良蔵さん(ボート部OB、商学昭38)のお申し出により、KGAAの活動として行われたものです。これに対し、ルース・M・グルーベル院長、井上琢智学長は連名の感謝状を同会長渡辺淳一さん(ラグビー部OB、法学昭41)に贈り、心からの謝意を表しました。

このことは、中央講堂で行われた「ホームカミングの集い」でも報告されましたが【写真中央】、午前11時過ぎより、ベーツチャペルに池田無事郎さん(ボート部OB、経済昭33、胸像をご寄贈くださった池田庄太郎さんご子息)とそのご家族をお迎えし、胸像を前に田淵結宗教総主事によるささやかな礼拝の時間が持たれました【写真左はベーツチャペルで感謝状を受け取られる渡辺会長、右は池田さんご夫妻を前に経緯を報告される北村副会長】。

本学にベーツ院長の胸像は3体ありますが、池田庄太郎さんご寄贈分はベーツ院長存命中に作られたこともあって、本人の特徴をよく表していると言われていました。また、長らくベーツホール(旧宗教センター別館)に置かれていたため、学生の身近にありました。そうしたことから「ベーツ先生の鼻を触るとテストでいい点が取れる」との言い伝えが生まれたようです。実際、胸像の鼻の頭はテカテカに光っています。

